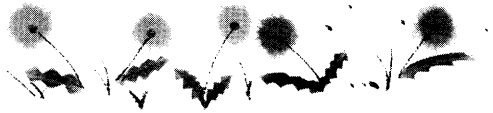



送る 黒田杏子さん

宮坂静生



兜太嵐龍太花冷え杏子の死
花冷えの身のがたがたや杏子逝く
いつも触手花に伸ばして一と世了ふ
死にいそぐとは生きいそぐ花の人
老いよよ花の曠野を疾駆せる
るたるたと杏子の電話花の午後
黄泉からの電話来るはず花巡礼

花逞し黒田杏子の伯楽よ



那須に疎開花は蕾の夢のころ
筑豊のセツルメントが花のとき
青邨の弟子を誇りと花あかり
ダイヤモンド婚すみ御衣黄ざくらいま
電話魔にして手紙魔よかひやぐら
馬が合ひ花巡礼の驥尾に付き
出雲崎尼瀬老舗の花の菓子